

恵仁会 通信 (戮力共心) vol.19

発行所：医療法人社団 恵仁会 オウル歯科クリニック
〒004-0847 札幌市清田区清田7条2丁目17-3
TEL011-887-1182

発行日 2010年8月01日



我々は、万が一の事態にも対応できる準備を整えています。

歯科治療には様々なお薬や、材料を使います。麻酔薬であったり、飲み薬であったり、消毒薬であったり、その種類は豊富です。そのため、治療に使用した物が不幸にも、患者さんにとってアレルギー物質であることがごく稀ですが、あります。事前に患者さんからの申し出により、アレルギー物質がわかっている場合は、もちろんそれを使わないようにします。しかし、申し出がなかったり、患者さん自身も把握出来ていない場合などは必ずしもアレルギー物質を避けることはできません。アレルギー反応が出て初めてそれがアレルギー物質であるとわかることもあります。

アレルギー反応も様々であり、吐き気が出たり、じんましんが出たり、熱がでたり、様々です。このような症状が万が一出てきたら、すぐに診療を中止し、しかるべき処置をとる必要があります。アレルギー反応のうち、特に重たい症状がでるものをアナフィラキシーショックと言います。アナフィラキシーショックは血圧の低下を伴い、最悪の場合、心肺停止状態になり、死に至るケースもあります。心肺停止状態になった場合は、BLS (Basic Life Support) を行い、救命救急への搬送を待ちます。その内容は、気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ、除細動です。我々はこの一連の流れを学習し、講習会などに出て、実習を受けたりしています。患者さんが不幸にもこのような状態に陥ってしまった場合に備えてです。

このような事態を防ぐには、患者さん側の対応としましては、

- ① アレルギー物質を申し出る(歯科で使わないと思われるものでも)
- ② 以前歯科治療で具合が悪くなったことなどがあれば報告する
- ③ 体調の悪い日は受診を避ける
- ④ 治療中、気分が優れないなどあればすぐに報告する

などが挙げられます。また、我々歯科医院側の対応としましては、

- ① アレルギー物質がないか問診する
- ② 患者さんの変化を見落とさない
- ③ アレルギー反応に対する治療薬の準備
- ④ BLS の習熟
- ⑤ 救命のネットワークの確立

などです。

歯科治療において、アナフィラキシーショックを起こし、心肺停止状態になることはごくごく稀であり、めったに起こることではありません。しかし、患者さんに安心して歯科治療を受けに来ていただけるように、我々は万が一に備えております。